

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：北海道開発局都市住宅課
担当課長名：小町谷 信彦

事業名 あかがわちゅうおうどうおり 赤川中央通	事業区分 街路	事業主体 函館市										
起終点 自：北海道函館市富岡町2丁目 至：北海道函館市美原5丁目	延長 1.6km											
事業概要 函館市の道路網の骨格は6放射4環状によって形成されており、その外環状線および放射2号線が交差する美原交差点は、周辺地域の宅地化、大型商業施設の利用客及び通過交通等の影響によって慢性的な渋滞が発生している。当該事業は、美原学園通と本通富岡通を街路により接続し、美原交差点の渋滞を緩和し、更に美原地区及び富岡地区の交通の円滑化や都市内主要施設へのアクセス性の向上、生活道路への通過交通の流入減少により沿道環境等を改善し、安全で確実な道路交通の向上を図る事業である。												
H8年度事業化	S48年度都市計画決定	H9年度用地着手										
全体事業費 約60億円 事業進捗率 49% 供用済延長 0.5km												
計画交通量 7,400台/日												
費用対効果分析結果 B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/ (事業全体) 27 / 60億円 (事業費：27/60億円) (維持管理費：0/0億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 66 / 80億円 (走行時間短縮便益：63/76億円) (走行費用減少便益：2/3億円) (交通事故減少便益：1/1億円)										
基準年 平成17年												
感度分析の結果 交通量変動：B/C=1.5 (交通量+10%) B/C=1.2 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.3 (事業費+10%) B/C=1.5 (事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.2 (事業期間+20%) B/C=1.5 (事業期間-20%)												
事業の効果等 ・都市の再生（市街地の都市計画道路網密度が向上する） ・安全な生活環境の確保（歩道がない又は狭小な区間に歩道が設置される） 他2項目に該当												
関係する地方公共団体等の意見 美原地区および富岡地区の交通の円滑化および都市内主要施設へのアクセス性の向上、沿道環境の改善が望まれており、地元住民から事業の早期完成供用が要望されている。												
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成12年度に美原地区に渡島支庁が移転。												
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地進捗率が51%であり、平成13年度に450mの完成供用を図っており、概ね予定通り実施している。												
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 外環状線と放射2号線が交差する美原交差点は、現在でも慢性的な渋滞が発生しており、事業の必要性に変化はなく、予定通り事業の推進を図る。												
施設の構造や工法の変更等 再生アスファルト混合物の活用など、資源の有効活用によるコストの縮減を図っている。												
対応方針 事業継続												
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。												
事業概要図												
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> <tr> <td>供用中</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>事業中</td> <td>.....</td> </tr> <tr> <td>再評価箇所</td> <td>//////</td> </tr> <tr> <td>うち供用済み</td> <td>\\\\\\</td> </tr> </table>	凡 例		供用中	—————	事業中	再評価箇所	//////	うち供用済み	\\\\\\
凡 例												
供用中	—————											
事業中											
再評価箇所	//////											
うち供用済み	\\\\\\											

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。